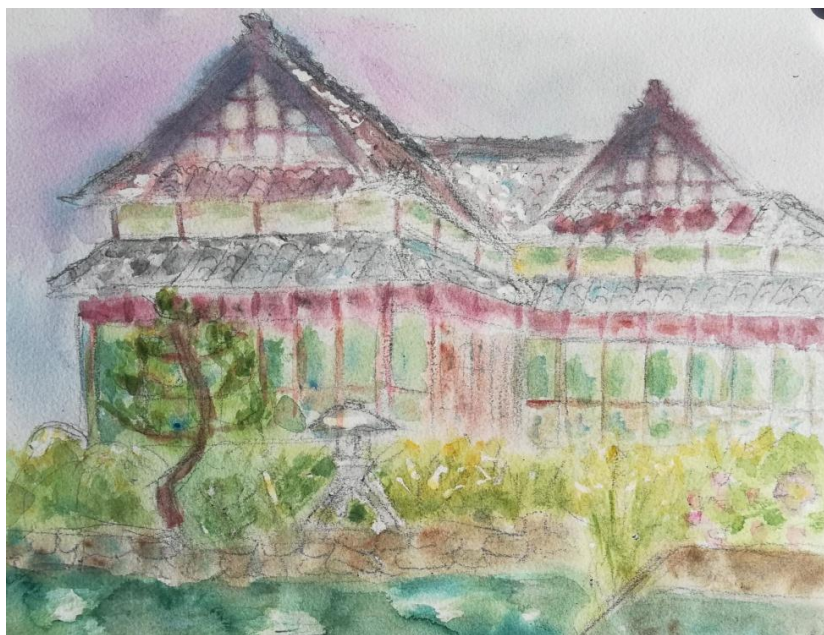


2018 年 10 月「あとリエー丁」スケッチ旅行（和倉温泉）作品集



岡田理子さん



● 港や船の絵よりも建物が好き、という理由で和倉の古い旅館の建物を写生しました。

石灯籠と松の木を近景に配置して古い建物をモチーフの中心に置いて描きました。

★（寸評）

輪郭を明確に描かないで雰囲気を出す手法は岡田さんの独特の技術です。色も強い色でなく複雑なうす色を組み合わせ描きます。

作品全体は柔らかくていいのですが、どこかに強いポイントがほしい。近景に流れる川をもう少し濃く書いたら作品が締まったと思います。

● 岡田さんが苦手とする「海」と「船とかもめ」を描きました。

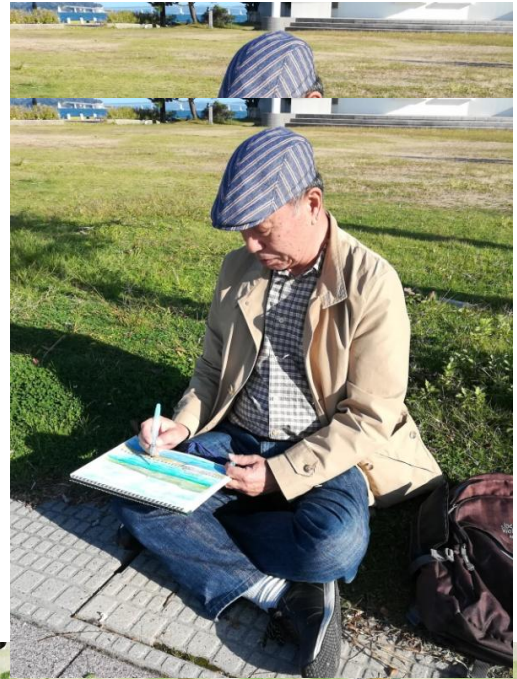
白く輝く波をマスキング剤を使って白抜きして雰囲気を出しました。

★（寸評）

好天の中にも少し風のある七尾湾のどかな雰囲気をよく出しました。それには 2 羽の「かもめ」が一役買ったと思います。遠景の橋げたに入れた 2 本の縦線も作品にアクセントをつけました。左上の太陽は不要と思います。



黒田重雄さん



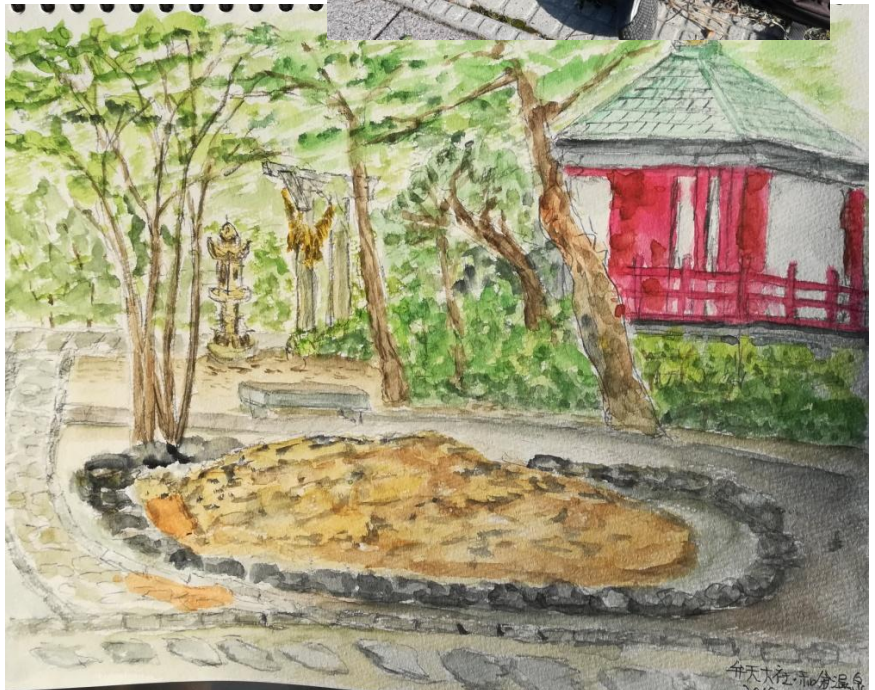
●港に近い小さな神社を1番目の作品に描きました。壁が赤塗りの本堂が強烈な印象を与える神社です。

太いしめ縄をした鳥居と石灯籠 木々の緑に囲まれる風情を描きたくて緑と赤をポイントにして描きました。

★（寸評）

黒田さんのよいところは対象物をよく観察して、正確に描写する力です。この作品にもその特徴が十分に発揮されています。

構図的には上半分を木々に囲まれた鳥居や本堂、一方、下半分の近景に手前の飛び石と円形のストーンヘンジ。下方を少し暗くすると作品全体が生きてきます。

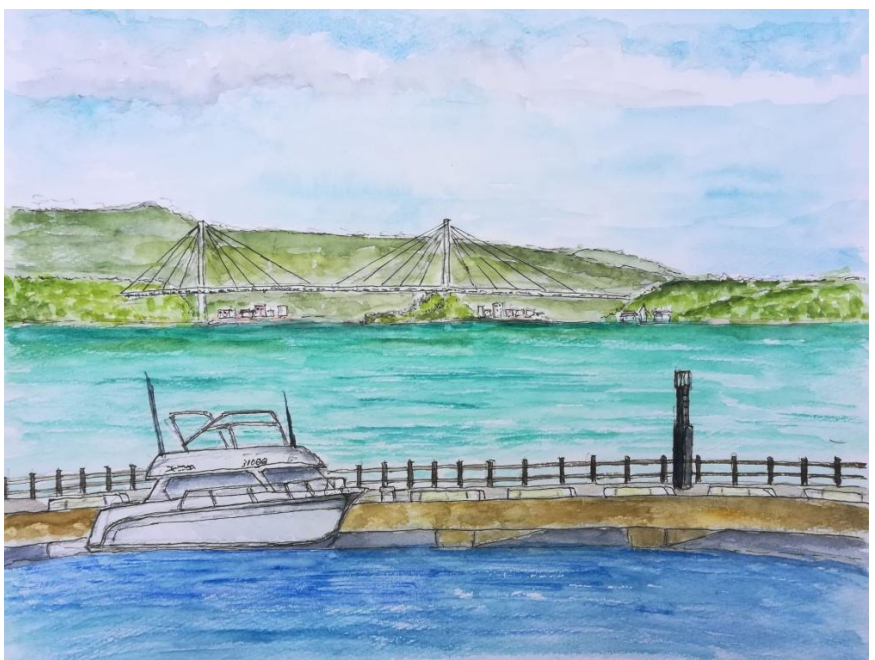


●モーターボートと和倉島に架かるつり橋を描きました。湾内の静かな水面が光って美しかった。

★（寸評）

黒田さんらしい描写の作品です。構図的には画面が縦に3等分されて平凡になりました。

縦の線、斜めの線で3つの領域を縦に貫く「線」が欲しいところです。わずかに堤防に鉄杭を立てましたが縦の線としては不十分です。中間と手前の海面の色を変えて画面に変化を与えたことがよかった。



井上清彦さん



●近景に陸揚げされた船、中景に係留された船々、防波堤、海、そして遠景に遠くの山並み、を描きました。

★（寸評）

井上さんの作品はいつも人柄通りに誠実です。

この作品のポイントは近景の良さにあります。

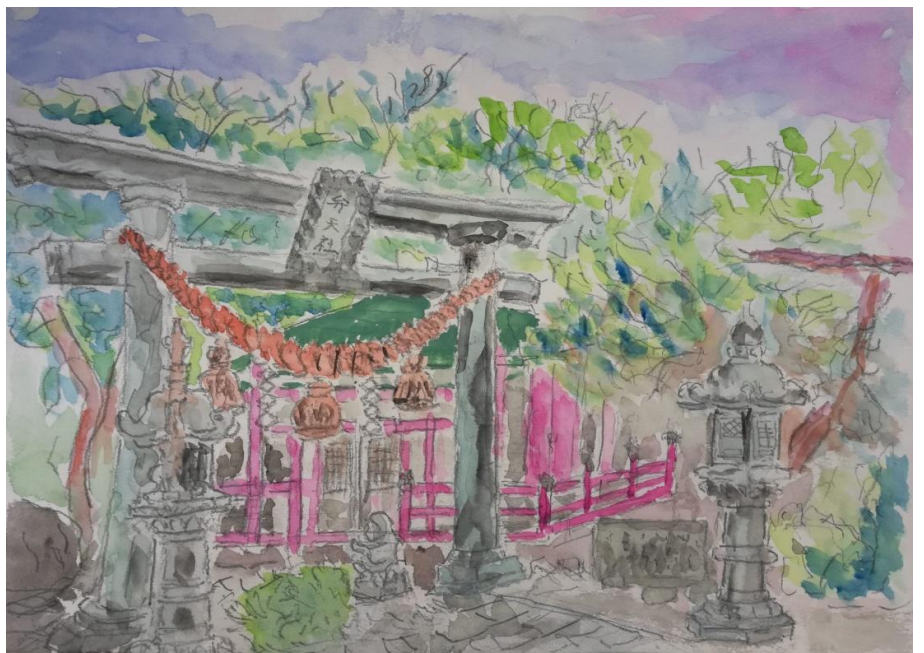
右手前に配した陸揚げされた大きな船の塊が、作品全体を引き締めると同時に、絵に物語性を与えました。

●港近くの神社を鳥居の方から、鳥居・しめ縄・石灯籠を絵の中心に置いて描きました。赤い色の本堂の表現が難しかった。

★（寸評）

絵の構図としてはとても難しいところにチャレンジしました。近景という近景が無く、遠景という遠景が無い、中景ばかりの構図だからです。

鳥居や石灯籠や赤色の本堂を木々の緑がうまく包みこんで一つの絵にまとまりました。同じ緑でも多様な緑で木々を描いたところが立派です。



遠矢慶子さん



●近景に岸壁、常夜灯、中景に美しい海面、遠景にブリッジと先の山々、そして、縦に3等分された構図を画面右手の常夜灯で縦に貫きました。

★（寸評）

シンプルで面白い作品ですが、次の点を修正するともっともっと面白い作品になります。

- ①手前の岸の線や近景を強調する。
- ②海に船を1艘描く。
- ③縦線の役割をしている常夜灯を単純な黒一色でなく、色彩を入れる。
- ④遠景の山の形をブリッジとずらせてブリッジと逆の形に描く。



●入江の奥の建物群と家々を中心に入江の静けさを描いてみました。

★（寸評）

とてもいい作品です。
紙面を上下1/2に分けて上に建物群と木々の緑、下半分に入江の静かな水面を描きました。右手前の複雑な岩場の近景のお陰で画面の上下1/2化は何の不自然さも感じなくなった。建物群をもう少し描き込む、小さな船を1艘どこかに描くことでこの絵はもっと面白く、良くなります。





竹前義博さん



★（寸評）

とても面白い絵です。

船の形は1艘だけ描くと難しいのですが、沢山描くと船に見えてきます。

作品を面白くした点は

- ①大胆な近景（陸揚げされた船の後部半分、さらに手前の斜面に描かれた線路、舟止め等）
- ②寄せ来る波を色を変えた縞状の波で表現したこと。

改善すべき点は

- ③堤防の向こうの水面とこちら側の水面の色を変えること。



●遠景のブリッジと空・雲、近景の岸壁と常夜灯、そして写生する人物、海の広さを表現した。

★（寸評）

ブリッジの向こう岸をなくして海原にしたこと、常夜灯を紫色にして雲につなげたこと、で作品がまとまった。

右下の人物を着色するといいと思います。

●入江に係留されている沢山のヨット郡を描きました。手前に陸揚げされた船を思い切って大きく切り取り、近景にしました。

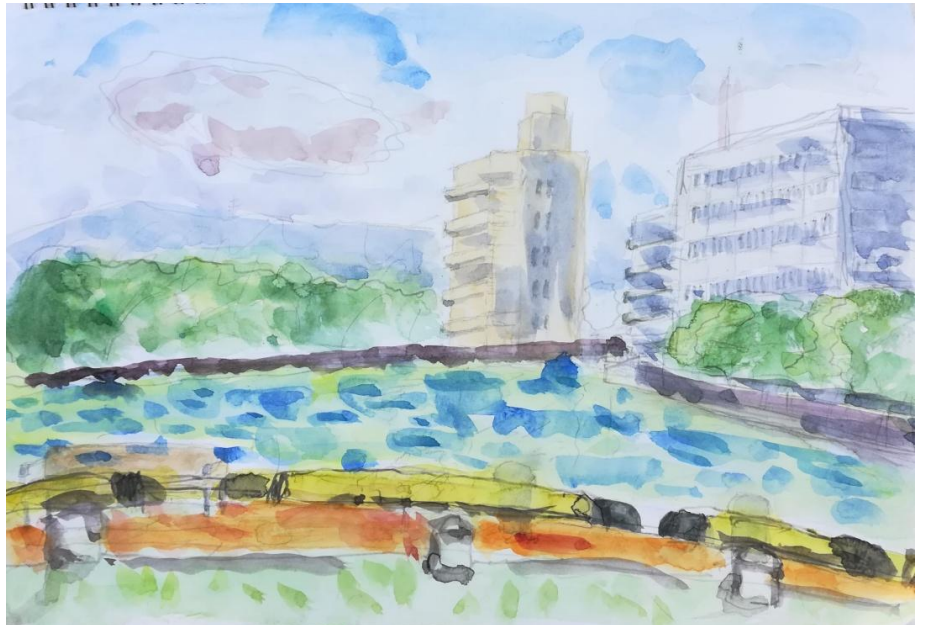
若林哲史さん



●入江の向こうに見える何の変哲もない建物群を描きました。近景はやや広めにとり、手前の岸壁にある黄色の車止めや石の椅子等を黄色・茶系・赤系の色で描きました。

★（寸評）

手前から岸壁・海・建物・空、紙面が縦に4等分された構図ですが、手前の湾曲した岸壁の線、中ほどにある折れ曲がった向こう岸の線、建物の縦の線、によって構図に違和感が無くなった。とても面白く描けた、いい絵です。



●モーターボート1艘が防波堤に係留されている。のんびりした海と空の雰囲気を描いてみました。

★（寸評）

構図的には横線ばかりの異様な構図ですが、不思議と違和感を感じません。

海も穏やか空や雲も穏やか、その中でボートの形と車止めの黄色が作品を引き締めました。

縦の線が無くても違和感を感じないのは、中央部に防波堤・船・海・向こう岸・遠方の山々を圧縮して全て入れたからです。



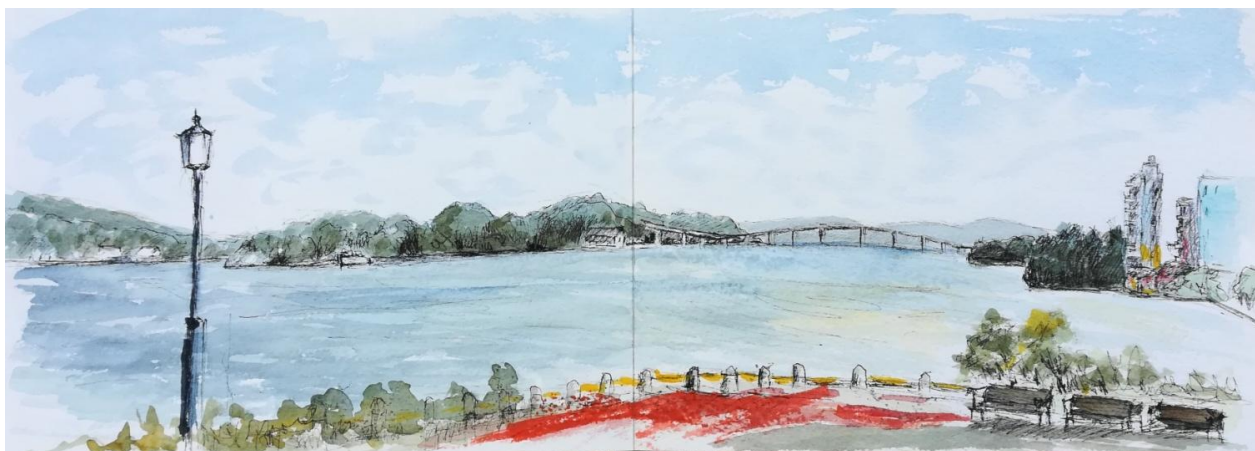
萩原 薫さん

●スケッチブックを広げて2ページ分を使って、ワイドな作品にしました。和倉島とブリッジ・海・近景の3点セットです。それを常夜灯の縦線が縦に貫き、右手の遠景に建物の縦線を強調しました。これで全体の構図的な調子を整えました。

★（寸評）

萩原さんは永年の経験に基づき、とても手なれた描き手だと思います。近景の岸壁をレンガ色にして成功しました。海に変化を持たせたらもっとよかった。

画面の半分を占める空もきれいです。



●作品1の反対側を見て船が2艘係留されている風景を描きました。

★（寸評）

船の形がしっかりと描けていて存在感があります。手前右下の描かれた、こんもりした木々の群れがこの作品のポイントです。近景と中景を無理なく結合させ、遠景の緑につなげました。これにより作品が一体化しました。画面の半分を占める空も美しいです。



●風景をいくつか切り取って、合成して無理のない作品を描いてみました。手前左の木を思い切って赤く描きました。ボートの赤い線との響き合いを狙ってみました。

★（寸評）

面白い作品です。構図も横・縦・斜めに自由に、色彩も奔放に自由、実際の風景をベースにして自由に絵を構成し創る面白さを会得しています。



喜田祐三さん



● 2 艘の係留されたボートを中心に描きました。同じ形をした 2 艘の船がまるで親子のように並んで停泊していました。山はどこまでも青く、空と海は光り輝いていました。



● 手前に陸揚げされた船、その向こうに何艘ものボートが係留されていました。空に光は輝き、海はきらきらと美しく輝いていました。能登ののどかで幸せな風景でした。

以上